

長門地域市町村合併シンポジウム報告

と話し、行政サービス面からは「地方分権への大きな流れの中で、行政サービスへの住民ニーズの多様化、そして来るべき少子高齢化社会に対応するためにも、市町村合併により行財政基盤を樹立する必要がある。人口一人当たりの歳出予算と行政サービスの水準を調査した結果でも、ある程度の人口規模がないと一定水準の行政サービスは提供できない」と分析。そして、行政改革の面からも「昭和の大合併から50年近くが経過して、自家用車の普及と道路交通網の整備が進み、情報化社会の中、生活は非常に便利になり、日常圏は広域化しているにもかかわらず、市町村の枠組みは全く変わっていない。行政は企業と違って倒産がないので、自己改革ができなかった。行政を改革するには市町村合併が最も有効な手段」と合併の必要性を強調しました。

また、その効果も「合併により行政の共通の部分は削減でき、歳出額は12%程度節減できる。小規模な町村が多いところほどその効果が大きい。全国では3兆7千億円という金額になる。その額を新幹線の建設費に換算すると、東京から西明石までの建設費に相当する」など、全国的な合併の動き、そして合併による効果と必要性を具体的なデータを示しながら分かりやすく説明しました。

パネルディスカッション

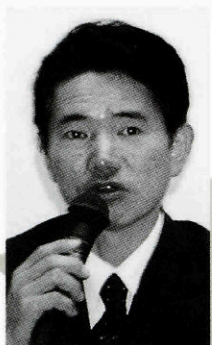
『地域の未来を考える』

パネルディスカッションの中で合併に対する意見・提言を一部抜粋、要約して紹介します。



今井佐知子さん(長門市)

今井「子どもたちが、これからのこのまちを選んで住み続けたいと思えるような環境に私たち大人がしてあげる責任があると思います。子どもたちが夢を育めるような環境にすることから、まちづくりを考えて頂きたい」



辻野達也さん(三隅町)

辻野「合併により自分の町の名前が無くなることには、非常に寂しい思いがします。全国的に理念の無い合併であれば、せめて長門大津地区は理念のある合併にして頂きたい。そのためにも、基本的なポリシーぐらいいは議論して頂き、住民の不安を取り除いて頂きたい。住民も『行政におんぶにだっこ』は改めて、民間サイドでもシ

ンクタンク的な組織をつくり、新しいまちづくりに反映させては」



古川芳正さん(日置町)

古川「財政面の損得勘定が前面に出過ぎて議論をされているように思えてなりません。肝心なのは、合併後の将来ビジョンであり、新しいまちづくりの夢のようなもので、そのことが十分に語られていないので合併後の姿が見えてこない。合併の情報は住民に開かれたものにして、計画の段階から住民が参加でき、住民主体の計画づくりを望みます」



中村一男さん(油谷町)

中村「キーワードは『いかに次の世代にいいバトンを渡すか』ということだと思えます。合併の将来ビジョンは、各市町のビジョンを一つに練り上げて、合併後もこれまでの市や町の色を残したまちづくり、みず々さんの『みんなちがってみんないい』という目標で合併を進めて頂きたい。合併に進むにあたり、1市3町の交流、特に

民間交流を深める場をつくっていかなくてはいけないと思います」

吉村「非常に積極的に建設的な意見で、大変うれしく思います。合併では総論はうまくいき、各論に入って対立が生じます。大事なものは、総論をしっかりと固めること。そして、お互いに良く知り合い、理解することだと思えます」



武安義博さん

武安「市町村合併は新しいまちづくりを考える絶好のチャンスと考えて、地域の将来を考えていく、そのような基本的なスタンスが重要となつてくると思います。住民の皆さんの意見がどのように反映されるかが、今回の合併にとって大きな課題だと思います」

